

「小松島市農業委員会の取り組みについて」

徳島県 小松島市農業委員会

I 小松島市の概要

小松島市は徳島県の東部中央、紀伊水道沿岸に位置し、人口約3万6千人、面積は45.37 km²で全体的に標高が低く、市域の7割が平野部であります。

昭和26年4月那賀郡立江町と合併、同年6月市制を施行、ここに港都小松島市が誕生しました。その後、坂野町が昭和31年に編入し、現在の小松島市になりました。

歴史をひもとくと貝塚の発掘、銅鐸の出土、古墳群の発見などによって、縄文時代から古代にかけて高度な文化生活者が多く居住していたと思われ、慶長以後、蜂須賀侯が入国して太平が続き、金磯新田が開拓され、紺屋と藍商人が活躍し、藩の銀札引き受け方を命ぜられるなど、阿波の商業、金融の中心地として栄えました。

市の地名は、平安時代、篠原郷、(前原、江田付近)新居郷(新居見付近)余戸郷(田野芝生付近)があり、このうち篠原郷は一時、京都の仁和寺の荘園であり、この仁和寺は京都の『小松郷』というところにあり、この名にちなんで『小松島』の地名が生まれたものと考えられます。



II 小松島市の農業の概要

小松島市は、水稲と菌床シイタケの産地であり、市町村をまたいで100haの大型水稲経営を行う農業経営体もある。菌床シイタケは県の出荷量は日本1位の実績であり、小松島市には農協以外に菌床シイタケの出荷組合が3つあり、関西・関東の市場に出荷している。また使用済菌床を利用した堆肥作りや、減農薬・特別栽培、生物多様性農業、有機農業など幅広い農法で生産が行われている。



総農家戸数	995戸
農家人口	1814人
経営耕地面積	1180ha
耕作放棄地	28.1ha
認定農業者数	92人
農業次世代人材投資資金対象経営 対数	5経営体

※農林業センサス、農業委員会調べ

III 農業委員会の現在の体制

令和2年7月に改選し、農業委員19人と農地利用最適化推進委員16人の合計35人で構成されています。事務局職員は専任職員3人です。

	農業委員	最適化推進委員
委員数	19人	16人
認定農業者数	11人	2人
認定農業者に準じる数	1人	0人

女性数	6人	0人
50歳未満の青年農業者の人数	3人	0人
利害関係を有しない者の人数	1人	0人

※令和4年1月現在

農地法件数

3条	4条	5条	18条	非農地
36件	26件	33件	34件	4件

(令和2年4月から令和3年3月)

IV 小松島市の活動事例について

①女性農業委員の登用要請活動

国が平成27年12月25日に閣議決定した第四次男女共同参画基本計画において、2020年までに農業委員の3割を女性にする方針が打ち出されました。

これを受けて、小松島市農業委員会会長の青木正廣さんは、いち早く農業委員の多くを認定農業者の登用、40歳未満の青年農業者や女性農業委員の登用促進に向けて活動を開始。平成26年に3名だった女性農業委員との打ち合わせ会を実施。平成29年には6名の女性農業委員の登用を実現し、さらに令和2年改選時に続けて6名の女性農業委員の登用が実現しました。



②農業者年金の加入推進

県農業委員会女性協議会の副会長の川瀬益栄さんが中心となり、女性のための農作業安全研修会の開催を進めています。また、農業者年金加入推進部長に女性農業委員と元女性農業委員の2名が登用。推進の要として推進活動を行っています。さらに農業委員会会長自らも加入対象者の自宅を訪問し加入推進の巡回を実施。積極的な加入推進活動を実施しています。



(小松島市 青木正廣会長)

今後の課題としては、小松島市の水稲地帯であることから農地中間管理機構を活用して、人・農地プランの中心経営体に貸し付けを行い、また、闇小作をなくし、価格が低迷する水稲の耕作放棄地の発生を未然に防いでいきます。

V その他の活動

市長との意見交換会の実施

①政策提案

令和3年7月29日に小松島市長との意見交換会を実施。担い手の育成、ほ場整備、有機農業の推進、農作業事故防止などの農業の政策提案を行うとともに市長との意見交換を実施した。

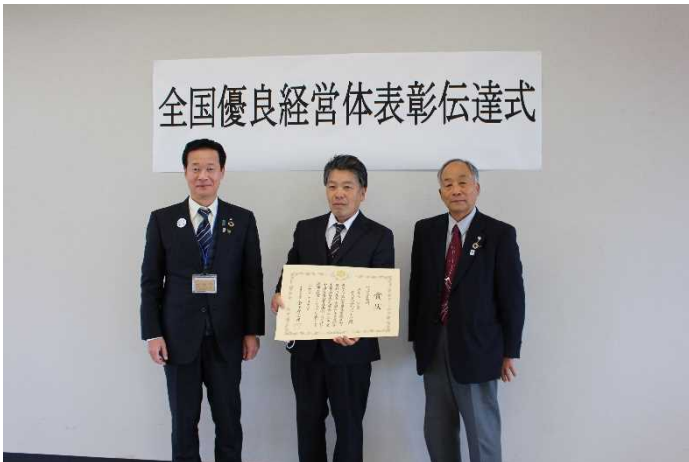
また、市長からは、農業者とのやりとりについては、貴重な機会であることから、また開催したいとの話が上がった。



(政策提案の様子)

②優良事例の表彰式

第二回目は(株)服部ファームが全国優良経営体表彰の経営改善部門で農林水産大臣表彰を受賞。小松島市長から表彰状の授与があった。(株)服部ファームは小松島市櫛淵町に拠点をもち、3市1町で活動している。同社の後継者である服部雅基氏は農業委員を務め、今後櫛淵町の農業を守っていくため令和4年度にライスセンターを建設し、経営面積100畝を目指す。



(表彰伝達式)